

活動履歴と今後の予定

- 5/17 錦町住宅いちの会総会
5/18 錦町東住宅総会
5/25 北浜住宅総会
6/8 令和7年度通常総会・トーキイベント
6/14 あすと長町第二市営住宅 第3回清掃意見交換会
6/15 錦町東住宅役員会・市長懇談会
6/24 栗原・加美リノベ空家活用スキーム研究会
6/28 あすと長町第二市営住宅 第4回清掃意見交換会
7/12 錦町住宅いちの会拡大役員会
あすと長町第二市営住宅 第5回清掃意見交換会
7/13 栗原・加美リノベ空家現地視察
7/26 あすと長町第二市営住宅 第6回清掃意見交換会
8/3 錦町東住宅役員会
8/23・24 栗原・加美リノベ空家研究会・インテリア整備
8/30・31 栗原・加美リノベ空家研究会・インテリア整備

Wi-Fi サロン
2ヶ所で開催中！

<つながリッキー@あすと第二>
開催日:毎週金曜13:30~15:00
場所:あすと長町第二市営住宅集会所(太白区長町6-5-13)
参加費:大人100円、高校生以下無料
◎主催:就労移行支援Rickyグルース、つなセン
◎協力:あすと第二市営住宅住民の会

<田子西スマホ講座>
開催日時:毎月第二土曜13:30~15:00
場所:田子西住宅集会所(宮城野区田子西1-11)
参加費:無料
◎主催:田子西町内会
◎協力:つなセン、東北学院大学UNISON

お気軽に
ご参加
ください！



入会のご案内／寄付のお願い

つなセンでは、あすと長町から始まり広がった復興コミュニティデザインの経験を、東日本大震災の被災地や熊本など他地域へ伝えるべく、活動しています。民間非営利の立場で、枠にとらわれず機動的に活動を続けていくためには、皆様からの会費や寄付が大きな支えとなります。会員として、又は寄付を通じて、ぜひ応援をお願いいたします。会員申込みは、ネットからもお手続きいただけます。 <https://tsunacen.thebase.in/>

継続的に応援するには

正会員又は賛助会員にご入会ください。
・正会員:年間6,000円・総会議決権あり
・賛助会員:年間3,000円・総会議決権なし

寄付のお振込先

<口座名義>特定非営利活動法人つながりデザインセンター
●郵便振替: 02230-8-121908
●郵便振込: ゆうちょ銀行 二二九支店(ニニキュウ) 当座預金 0121908

会員団体のみなさま

SD不動産 NPO都市住宅とまちづくり研究会
NPO法人 みやぎ「こうでないと」 共立女子大学 高橋研究室
株式会社ミツイ CASEまちづくり研究所 高齢者配食サービス「ほっと亭」
社会福祉法人ライフの学校 スタジオまめちうだい 仙台白百合女子大学 佐々木研究室
仙台南健康友の会 つばさ薬局長町店 東北工業大学 新井研究室 東北工業大学 谷本研究室
長崎大学 安武研究室 宮城厚生協会長町病院 有限会社栗駒建設

役員名簿

代 表:薄田 榮一
副代表:新井 信幸
理 事:松原 久
理 事:マリエリザベス
理 事:田澤 純子
理 事:山中 千怜
監 事:金沢 和樹
監 事:佐々木 裕子

編集後記

私たちの活動の原点はあすと長町の「応急仮設住宅」、いわゆるプレハブ仮設住宅でした。月日が経ち、能登半島地震等その後の災害時は、みなしふ設住宅が主流となり、かつ、再利用可能なトレーラーハウス型や予め公営住宅への転用を想定した木造仮設住宅等、一時的に建てて壊すタイプが少なくなっています。そのため、「仮設住宅」ではなく、「応急住宅」と呼ばれるようになってきたそうです。(新井)

NPO法人

つながりデザインセンター

〒983-0841 仙台市宮城野区原町五丁目5番35号 熊谷ビル205

TEL 080-3205-5177
MAIL asuto@tsuna-cen.com
WEB www.tsuna-cen.com



35
2025.08

つなセン

TSUNAGARI Design Center

NEWS



つながりづくりを日常の中で

気仙沼の災害公営住宅で開催されている「おとなり食堂」の様子

復興支援の継続に向けた連携と経営

持続可能な自治体制の構築を目指した清掃活動の意見交換
リノベーション済みの空き家をモデルとした事業スキーム研究

【団体紹介】任意団体otonari

活動報告

Main Topic



**連復
携興
と支
経援
営の
継続
に向
けた**

1 総会の様子と事業計画

6月8日、つなセンの第9回通常総会を事務所にて、対面とリモートのハイブリッド形式で開催しました。リアル12名、リモート4名出席頂きました。2024年度事業報告・決算、2025年事業計画・予算とともに、山中千怜さんの新理事就任が満場一致で承認されました。また、設立時から事務局長を務めていた宮本愛さん、3年間理事を務めていた松村翔子さんがそれぞれご本人の申し出によりご退任されました。お二人には大変お世話になりました。改めて



▲総会の様子(2025年6月8日・つなセン事務所)

感謝申し上げます。

2024年度事業報告では、コミュニティ形成支援として、塩竈市内3地区、仙台市内3地区の災害公営住宅での自治運営支援、集会所利用促進活動等の報告を行いました。もう一つの重点事業である空き家活用については、活動財源の安定的確保のため、仙台市青葉区中江地区に空き家を活用した「川のほとりのシェアハウス中江」の整備・オープンを報告しました。2025年度事業計画では、2軒のシェアハウスの家賃収入、助成金申請等によって財源を確保し、災害公営住宅の持続可能な自治体制の構築と孤立を防ぐ居場所づくりに銳意取り組むことを説明しました。総会終了後は、トークイベントを開催し、理事の山中千怜さんと松原久さんに話題提供をいただきました。



▲気仙沼「おとなり食堂」

Topics

持続可能な自治体制の構築を目指した清掃活動の意見交換



前号にて、持続可能な自治体制の構築を目指して、あすと長町第二市営住宅での共用部清掃に関する意見交換会について報告しましたが、その後も継続して、これまで5回開催し、毎回20名程度の住民の方々と意見交換を行なってきました。そこでは、義務である共用部清掃に2割程度の世帯しか参加していない状況

やその要因を共有しながら、改善策を検討してきました。そして共用部の管理が住民一人ひとりの義務であることを多くの住民に理解してもらうこと、その上で、参加しやすい(義務を果たせやすい)ルールづくりと

その運用を検討することになり、現時点で以下のようなルールを基本とすることとなりました。このルールの11月施行を目指して、具体的な運用方法や体制などについて意見交換を継続しています。

- 各世帯は毎回①～③のいずれかを選択して義務を果たすことができる。
- ①指定された一斉清掃の日時に清掃を実施する。
- ②一斉清掃とは別の日時に個別に清掃を実施する。その際、清掃実施日時等の事前申告あるいは事後報告を行う。
- ③清掃協力金(500円程)を払うことで当月の清掃が免除となる。

団体紹介
No.35任意団体
otonari

任意団体otonariは、気仙沼市内3箇所の災害公営住宅(幸町・内の脇・南郷)で、孤立を防ぐごはん会として「おとなり食堂」を開催しています。1ヶ所あたり週1回から月2回開催しており参加費は500円。数名のボランティアとともに調理や準備は代表の山中千怜氏が担っています。

「おとなり食堂」は、年齢や立場を問わず、誰でも気軽に食事やおしゃべりを楽しめて、「ここに来れば誰かがいる」といった安心感のある居場所となることを大事にしています。調理や配膳、片付けなど参加者の“できること”を持ち寄ることで成り立っているのこと。3箇所とも参加者は高齢の方がほとんどで、毎回10名程度が来店し、そのうち女性が9割、男性は1割ほど。そんな「おとなり食堂」の様子やそこから見えてきた地域の課題と展望については、今号メイントピックをご参照ください。

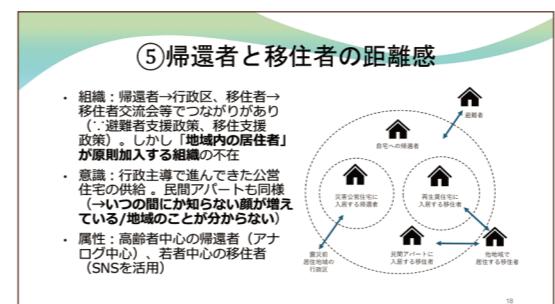
ちなみに、otonariとつなセンとのつながりは、今年3月に山中さんが「あすと食堂」の取り組み等について話を聞きに来てくれたことがきっかけでした。

2 気仙沼「おとなり食堂」

山中さんが代表を務める任意団体otonariによる「おとなり食堂」は、気仙沼市の災害公営住宅の集会所で月に8回ほど開催しています。活動概要については、今号「団体紹介」をご参照ください。ご高齢の参加者のうち半数が独居で孤立気味で、災害公営住宅ではお隣同士でも顔が分からず、自治会運営の手不足、新しい入居者との情報共有の難しさなどの地域課題が、食堂を通して見えてきたそうです。その上でも、食を通じてつながりを育み、閉じた雰囲気や判断を乗り越えるきっかけを作り、災害公営住宅の枠を超えた出会いの場として取り組みたいとおっしゃっていました。

3 原発避難地域のコミュニティ再構築

松原さんの話題では、原発避難地域では、住民票を残したまま避難を継続している人や住民票を移していない移住者が存在するなど異なる背景を持つ住民が生活していて、多くの災害公営住宅では自治会や管理組合が設立されておらず、行政が共益費徴収や共用部分管理を担っているとのことでした。浪江、大熊、富岡の事例が紹介され、それぞれ地域で顔の見えない関係性が懸念されていました。松原さんは、原発避難地域特有の事情を認識したうえで住民同士の経験の共有を生み出す地域活動の重要性を述べていました。



▲原発避難地域のコミュニティ再構築

リノベーション済みの空き家をモデルとした事業スキーム研究

今年度よりつなセン会員の栗駒建設、東北工大新井研究室を中心となり、空き家の活用を効果的に展開するための事業スキームの研究会を進めています。現在は宮城県加美町に立地するリノベーション済みの空き家「かみの暮らし箱」をモデルケースとして、借り手、買い手を想定した活用方法(民泊や賃貸住宅等)や、付加価値づ

くりを検討しています。その一環で、7/13に同住宅と周辺地域の視察バスツアーを開催し、関係者約20名が参加しました。現地で意見交換も開催し、トレッキングやカヌーなどのアウトドアを楽しめる環境を活かした活用方

法など多くの意見が出されました。また地元の高校の先生や元地域おこし協力隊民泊・空き家バンク経営者等とも交流を深めました。今後は「かみの暮らし箱」を活用したアートワークショップ等を開催し、人の気配と地域の魅力が感じられる物件情報の発信を行っていく予定です。アートワークショップは9/21開催を予定しています。今後の取り組みとともに、別途ご案内いたします。

